

平成13年度、平成14年度
沖縄県企画開発部委託調査

中南部都市圏づくりの基本構想（案）

〔中南部都市圏将来展望調査 / 基本構想・機能導入調査 ダイジェスト版〕

平成15年3月

中南部都市圏将来展望調査 / 基本構想・機能導入調査共同企業体
株式会社 野村総合研究所
株式会社 沖縄計画研究所

目 次

- 1 章 沖縄県中南部都市圏基本構想とは
- 2 章 中南部都市圏の将来像と都市圏づくりの基本方向
- 3 章 中南部都市圏の自立的産業・機能整備構想
- 4 章 中南部都市圏の全体整備構想
- 5 章 普天間基地跡地活用方策の基本的方向性

1 章 沖縄県中南部都市圏基本構想とは

1 - 1 . 中南部都市圏基本構想の対象範囲と 想定年次

1 . 調査の目的

S A C O 合意 (基地返還)

閣議決定
「跡地利用の促進及び円滑化等に関する方針」

沖縄振興特別措置法

沖縄振興計画 (平成 1 4 年 7 月)

返還跡地 - 沖縄振興の貴重な空間
普天間飛行場跡地 - 中南部都市圏の枢要な位置
広域的な視野、県土構造の再編

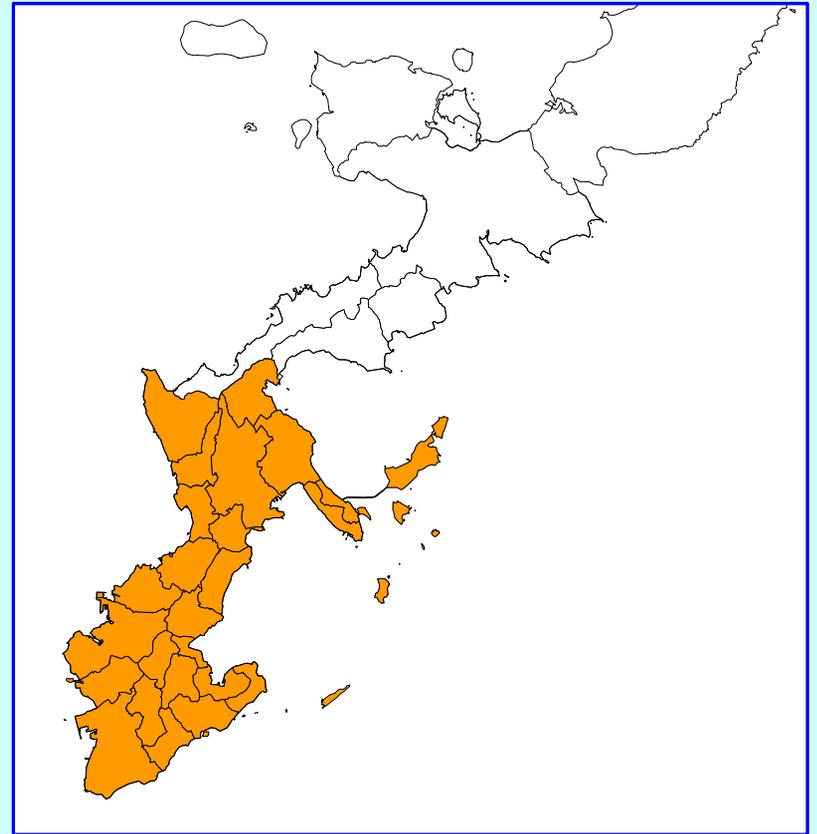
中南部都市圏全体の基本構想

1 - 1 . 中南部都市圏基本構想の対象範囲と 想定年次

2 . 中南部都市圏の範囲

市部： 那覇市、石川市、具志川市、
沖縄市、宜野湾市、浦添市、
豊見城市、糸満市

郡部： 与那城町、勝連町、読谷村、
嘉手納町、北谷町、北中城村、
中城村、西原町、東風平町、
具志頭村、玉城村、知念村、
佐敷町、与那原町、大里村、
南風原町



1 - 2 . 中南部都市圏の現状

- ◆ **人口** 中南部都市圏の人口は約110万人
人口・面積とも北九州市（100万人、485km²）とほぼ同じ
- ◆ **産業雇用** 自立的産業が弱く雇用の場が不足
- ◆ **都市構造** 那覇市と沖縄市を結ぶ都市軸が形成
- ◆ **生活環境** 都市部の密度が高く課題も多い

1 - 3 . 中南部都市圏の活用すべき資源・資質

- ◆東アジア等の世界とのつながり
- ◆長寿・健康・癒しの文化風土
- ◆魅力ある都市的観光や歴史文化資源
- ◆充実した高速大容量通信環境

1 - 4 . 地域住民の地域づくりへのニーズ

住民の望む中南部都市圏の将来地域イメージ（概ね10年後）

安全や医療が確保され誰もが安心して暮らせる地域	77.3%
産業・経済が活発で活力に満ちた地域	37.5%
地球環境への不可の小さい環境と共生した地域	34.5%

今後の中南部都市圏づくりの望ましい方向

長寿健康生活や安らぎのある生活が営める“健康福祉都市”	55.5%
自然保全や地球環境への不可の軽減に配慮した“環境共生都市”	42.0%
住み心地がよく、生活感溢れる“生活居住都市”	40.1%

今後中南部都市圏において力を入れて振興していくべき産業

環境関連産業（リサイクル、新エネルギー等）	47.6%
観光・レジャー産業（ホテル、旅客運輸、レジャー施設等）	44.0%
情報通信関連産業（情報サービス、コンテンツ政策、ソフト開発等）	42.9%

2章 中南部都市圏の将来像と都市圏 づくりの基本方向

2 - 1 . 中南部都市圏の将来像 (こうすべき姿)

世界に開かれた 平和で安らぎと活力のある 中南部都市圏

◆ 「世界に開かれた」中南部都市圏

- 世界交流都市、観光まちづくり、平和貢献都市、国際コンベンション都市
等のイメージ

◆ 「安らぎ」のある中南部都市圏

- 長寿健康都市、観光保養都市、生活福祉都市、環境共生都市 等のイメージ

◆ 「活力」のある中南部都市圏

- 産業技術都市、賑わい活力都市、文化創造都市、文化教育都市 等のイメージ

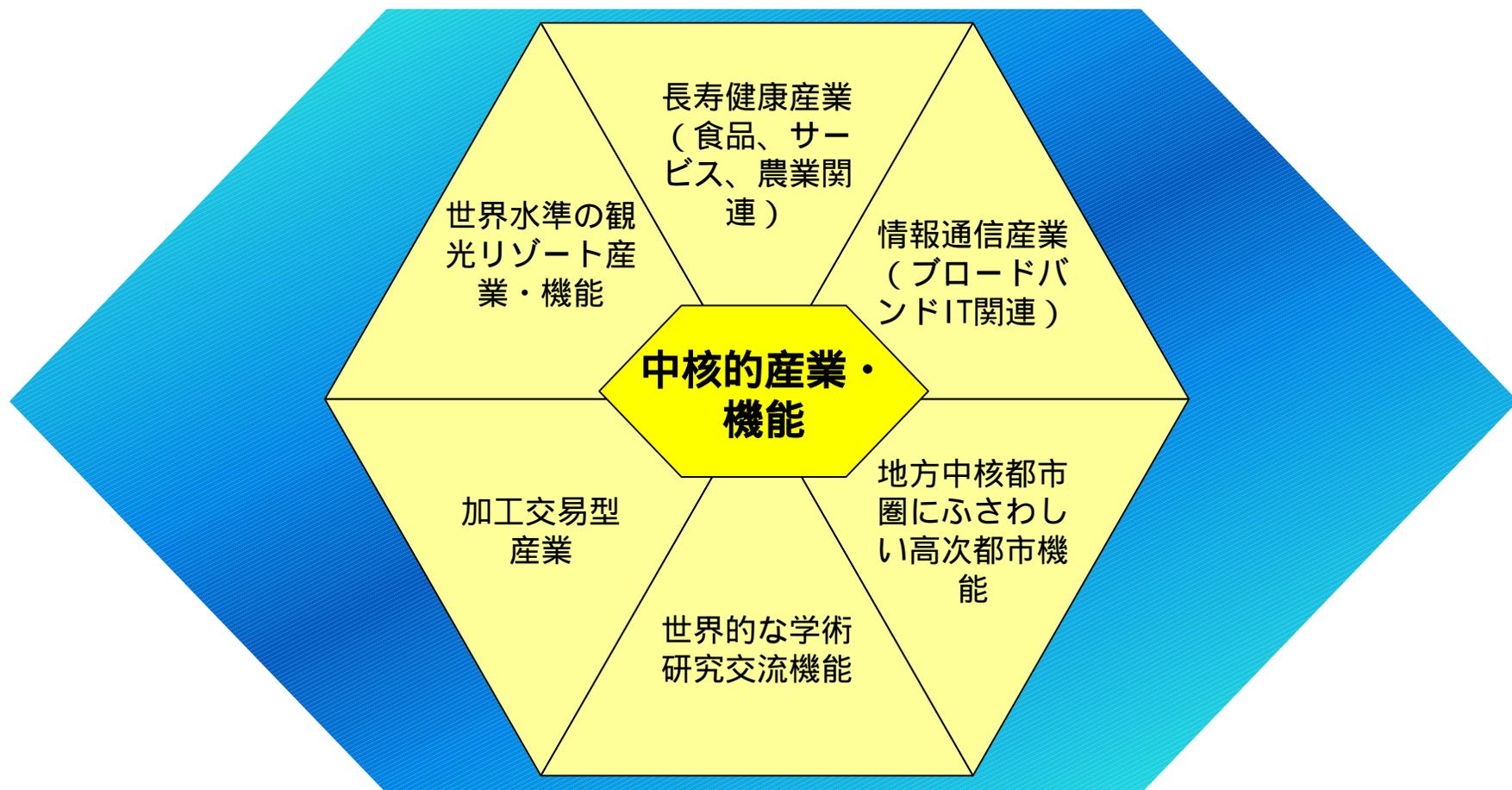
2 - 2 . 中南部都市圏づくりの基本方向

- (1) 自立型経済を支える中核的産業・機能の育成強化
- (2) 沖縄の文化・風土を活かした都市・生活環境づくり
- (3) 多核重層連携型の都市圏構造と拠点形成
- (4) 圏域内外の交流を支えるネットワーク基盤の整備
- (5) ゆとりと緑あふれる土地利用の実現

3 章 中南部都市圏の自立型産業・ 機能整備構想

3 - 0 . 自立型経済を支える6つの中核的産業・機能と整備構想

中南部都市圏の自立型経済を支える6分野
それに対応した6つの産業・機能整備構想を策定



3 - 1 . 観光リゾート産業・機能の導入整備構想

～ 芸術・エンターテインメント・健康と 融合した新ホスピタリティ産業構想～

自然・歴史などの地域風土の魅力、芸術・エンターテインメント・交流などの都市的魅力、沖縄の長寿健康を支える食文化・生活文化などを資源として活用

芸術・エンターテインメント産業、長寿健康関連産業、コンベンション産業、長期滞在型観光リゾート産業などが融合した新たなホスピタリティ産業の形成を目指す

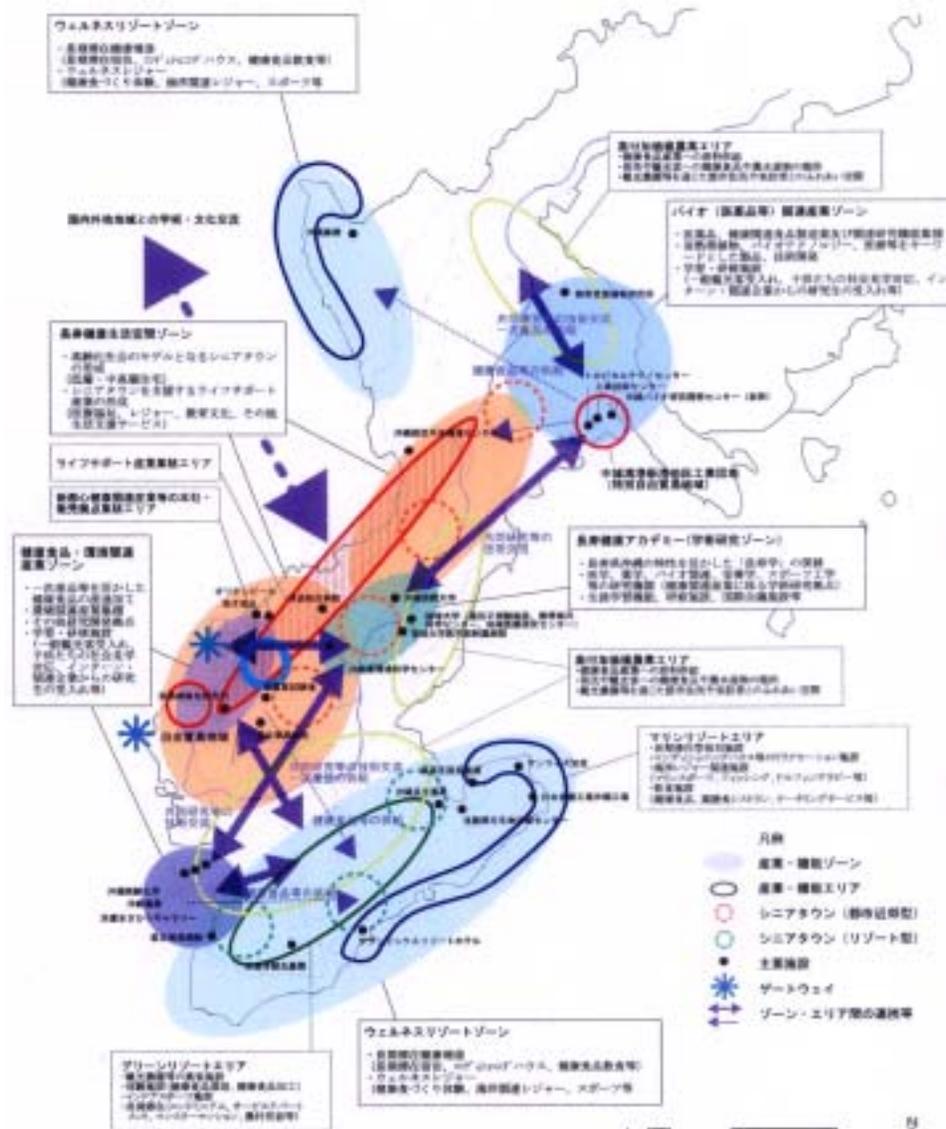
3 - 2 . 長寿健康産業・機能の導入整備構想

リゾート・健康技術・知識産業と融合した ライフサポート産業構想 ~

年間を通して過ごしやすい温暖な気候、沖縄の長寿の源となる食材や食文化を最大限に活用。定年退職者などの沖縄への移住や長期滞在に対するニーズへも対応

ウェルネス・リゾート産業、食品・バイオ・環境等の健康関連産業、医療福祉産業、長寿健康分野の学術研究機能、生涯学習支援産業などが融合したライフサポート産業の形成を目指す

長寿健康産業・機能展開の全体構想図



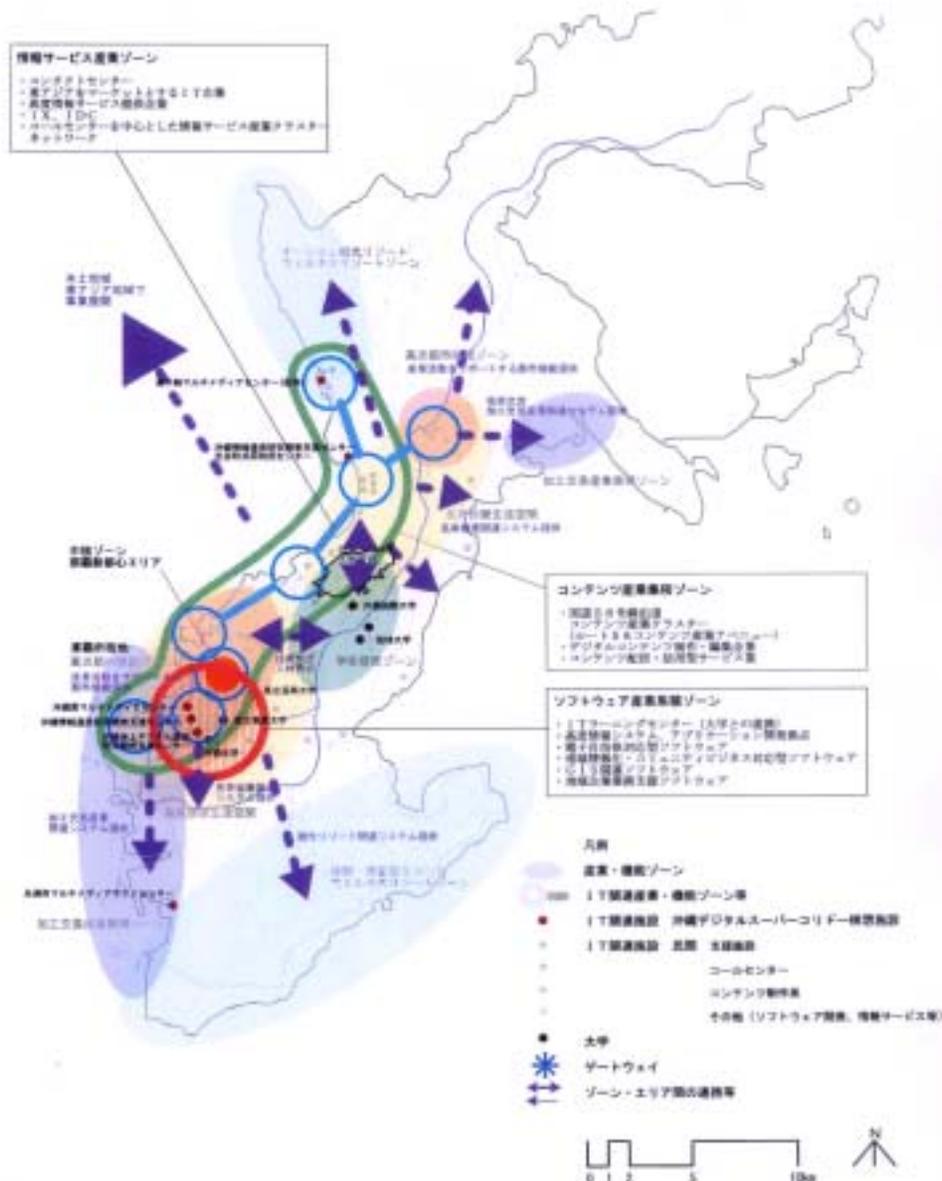
3 - 3 . IT関連産業・機能の導入整備構想

～ 高度IT・高度コンテンツを展開する KT（知識技術）産業構想 ～

東アジア地域での競争が激化するなかで、中南部圏の情報通信基盤をさらに充実し、コンテンツ制作やソフトウェア開発等のIT関連産業の強化を図る

IT産業と学術研究機関の連携によって、より高度なIT（情報技術）やコンテンツの研究開発、技術者育成等を展開する新しいKT（知識技術）産業の形成を目指す

IT関連産業・機能展開の全体構想図



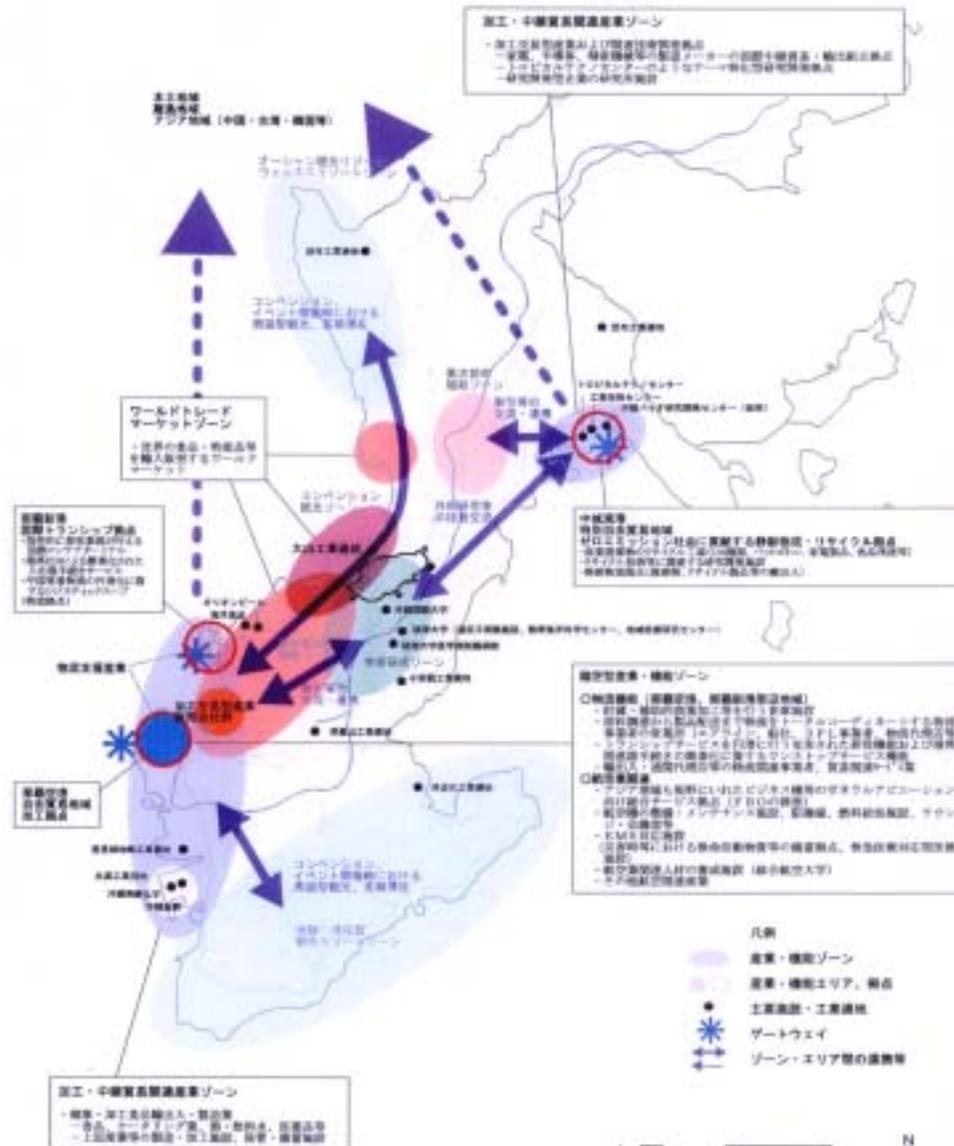
3 - 4 . 加工交易産業・機能の導入整備構想

～ グローバル交流に対応した 新交易・臨空産業構想 ～

国際港湾、国際空港、自由貿易地域・特別自由貿易地域などの基盤機能の活用とさらなる強化を図る

それとともに、加工・中継貿易関連産業及び技術開発機能の展開、アジア地域をターゲットとする多目的航空輸送サービス、世界からの輸入品展示販売機能など、グローバルに展開する新たな交易産業と臨空型産業の形成を目指す

加工交易産業・機能展開の全体構想図

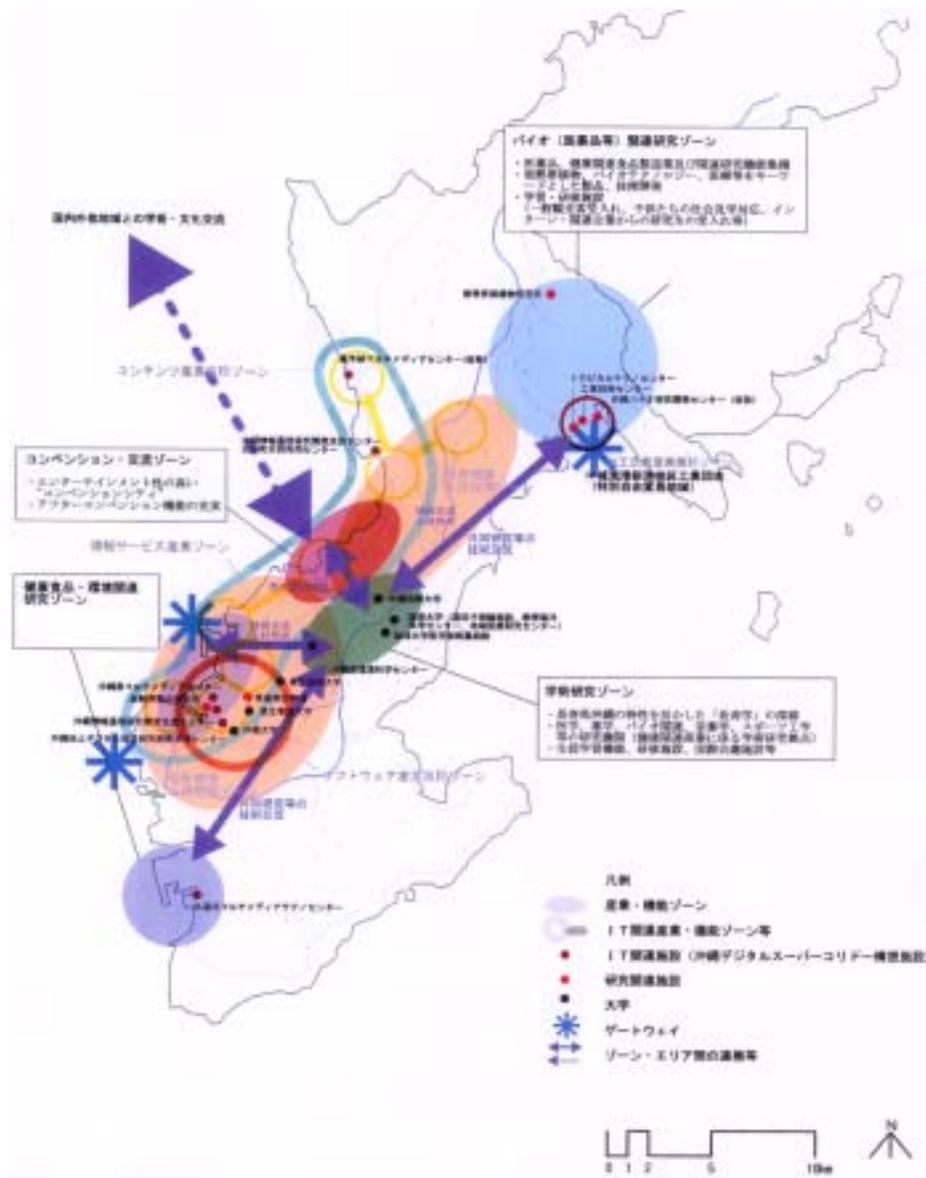


3 - 5 . 学術研究交流機能の導入整備構想

世界的な新技術イノベーションと産業化の競争へ対応していくためには、学術研究交流機能を核とする知的産業クラスター形成が必要

中南部都市圏では、高度IT、医療・バイオ分野等における新産業技術イノベーションを、大学等の中核的学術研究機関とものづくり産業等との連携によって展開していく

学術研究交流機能展開の全体構想図



3 - 6 . 高次都市機能の導入整備構想

～ 東アジア最先端の高次都市機能展開構想 ～

中南部都市圏は人口100万人超の大都市圏であり、さらなる高次都市機能の立地の潜在的可能性をもつ

既存の機能と連携することにより相乗効果が発揮される、東アジア最先端の高次都市機能（デザインセンター、メディアアートセンター等）の各都市の特性に応じた導入を目指す

4章 中南部都市圏の全体整備構想

4 - 1 . 中南部都市圏の都市拠点・都市軸整備構想

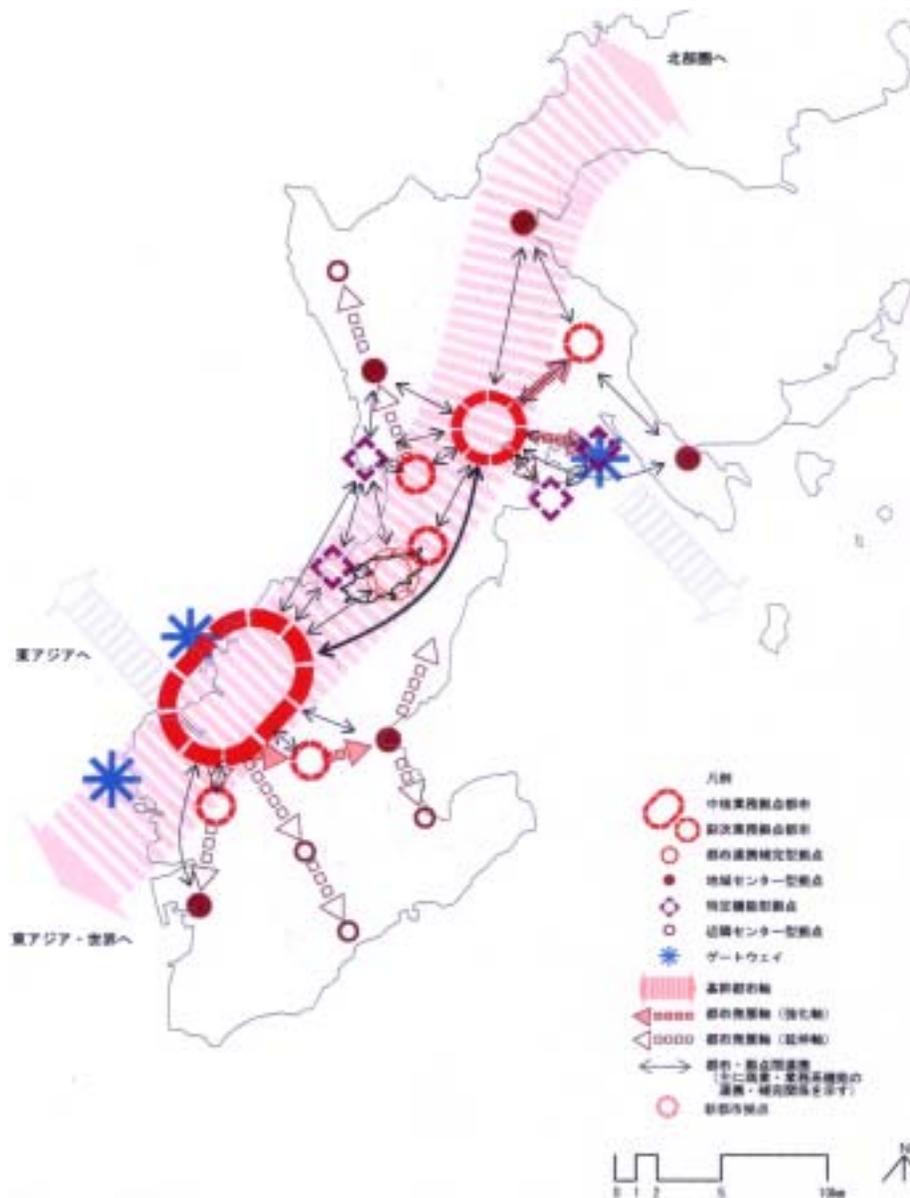
顔の見える自立的な 都市拠点形成

- ◆中南部都市圏を牽引する中核業務機能拠点の強化
- ◆都市圏のバランスを保つ副次業務機能拠点の育成
- ◆多様な性格を持つサービス機能拠点の育成
- ◆新しい都市拠点（複合機能拠点）の形成
- ◆都市拠点における“顔の見える”都心（中心市街地）の形成

厚みと広がりをもつ 連携型都市軸の形成

- ◆ 基幹都市軸の整備
- ◆ 都市圏発展軸の整備

中南部都市圏の都市拠点・都市軸整備構想図



4 - 2 . 中南部都市圏の都市・生活環境整備構想

沖縄らしさを活かした 都市環境の形成

- ◆ 亜熱帯性の特性を活かした自然共生型のまちづくり
- ◆ 車社会と徒歩移動が融合する人間的尺度のまちづくり

人間を中心に据えた 生活環境都市の創造

- ◆ 人間的尺度（ヒューマン・スケール）、ユニバーサル・デザイン
- ◆ ノーマライゼーション、人々の選択の多様性の確保
- ◆ 人々の安心・安全な暮らし、ゼロ・エミッション

人にやさしい豊かな 生活環境の形成

- ◆ コミュニティ性・生活感の回復に向けた取組みの推進
- ◆ ゼロ・エミッション、脱温暖化に対応したまちづくり
- ◆ 生活利便性を高めるIT生活プラットフォームの構築

4 - 3 . 中南部都市圏の空間整備構想

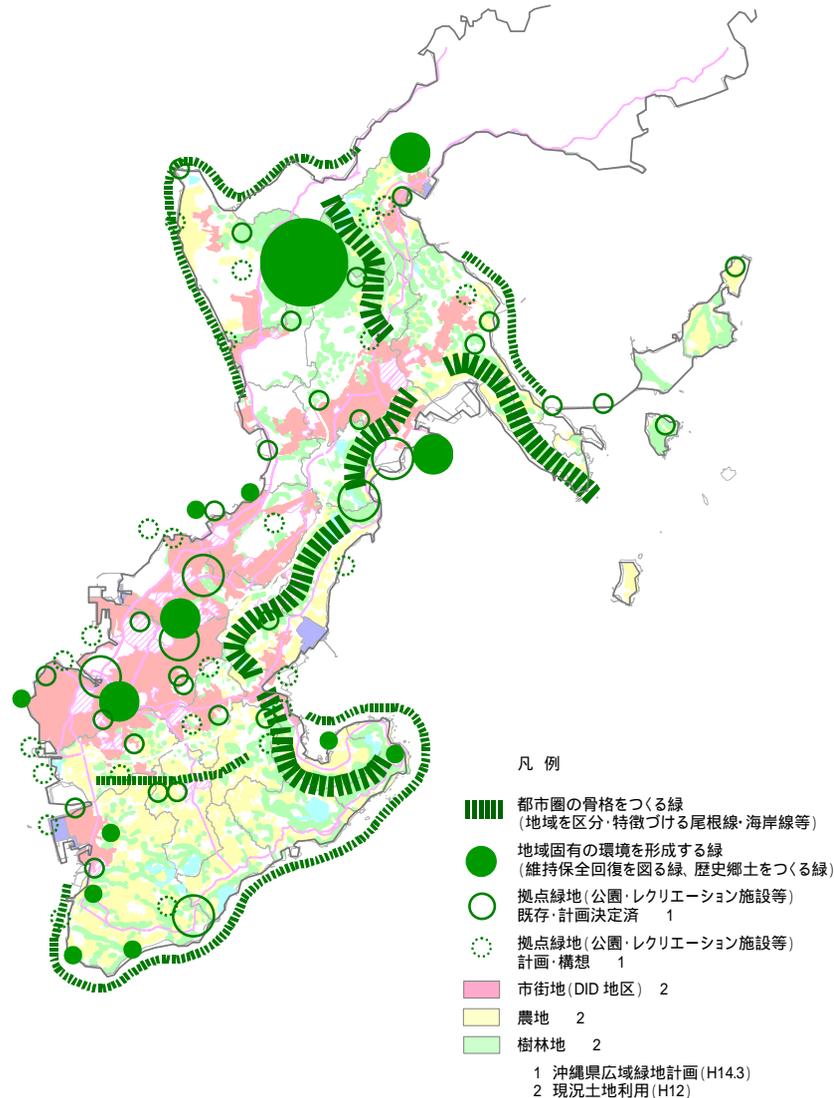
自然保全・開発誘導による “成長管理型”の空間整備 (配慮条件)

- ◆都市圏の“成長管理”を実現する適切な土地利用
- ◆自然環境の保全と“自然の骨格”形成
- ◆新規開発可能空間の有効利用と需要誘導

成長管理による多核重層 連携型の都市圏形成

- ◆産業・機能ゾーン、都市拠点・都市軸の重層的な整備
- ◆“自然の骨格”をベースとした産業・機能配置
- ◆基幹都市軸に沿った産業・機能ゾーン、都市拠点整備
- ◆都市軸の発展方向を踏まえた新規開発可能空間の有効利用

自然環境の保全と“自然の骨格”形成



多核重層連携型都市圏の構想図



4 - 4 . 中南部都市圏の交流基盤整備構想

多核重層連携型都市圏を支える 交通ネットワークの形成

本県の国際性、
ネットワーク拠
点性を高める広
域交通体系の整
備

多核重層型都市
圏構造を誘導す
るモビリティの
高い骨格交通体
系整備

都市圏交通の過密
問題を軽減する総
合的な交通需要管
理政策の推進

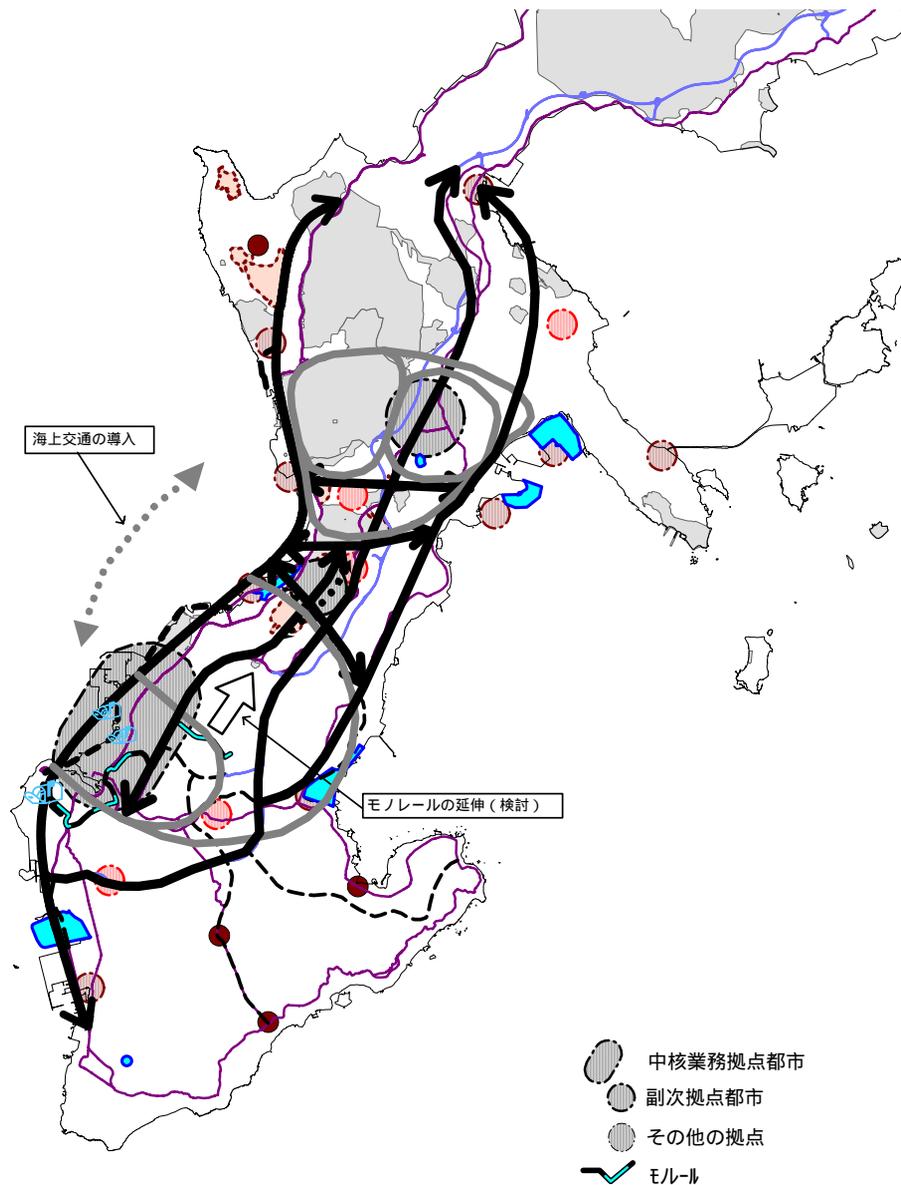
コミュニケーションを支える ユビキタス・ネットワークの構築

ブロードバンド
(高速大容量)
通信環境の整備

ユビキタス・
ネットワーク
(注)の整備

(注) いつでも、どこでも使えるブロードバンド、常時接続、モバイル、
バリアフリーインターフェース等の条件を備えた情報通信ネットワーク

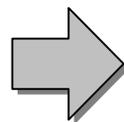
中南部都市圏の交通ネットワーク基盤整備のイメージ



5 章 普天間基地跡地活用方策の 基本的方向性

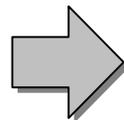
5 - 1 . 普天間基地跡地の潜在力（ポテンシャル）

自立型産業・機能の面
でのポテンシャル



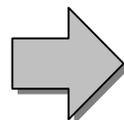
“新産業融合の場”

都市拠点・都市軸の面
でのポテンシャル



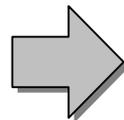
“第3の都市核”

都市・生活環境面
でのポテンシャル



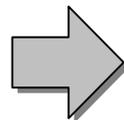
“新沖縄生活文化の発祥地”

自然の骨格構造の面
でのポテンシャル



“自然の骨格拠点”

交通ネットワーク構造の
面でのポテンシャル



“動脈・ラダー構造結節点”

中南部都市圏の都市拠点・都市軸構想における 普天間基地跡地の位置づけ



5 - 2 . 普天間基地跡地利用の基本的な考え方（試案）

- ◆ 普天間基地跡地利用においては、主に産業振興の視点から、異なる産業・機能を融合して新しい産業を生み出していく“新産業融合拠点”としての利用を目指す。
- ◆ この新産業融合拠点の形成と同時に、都市機能の強化、生活環境の改善、緑の拠点の創出等を進める。
- ◆ 特に、沖縄の気候や風土を活かした観光リゾート、長寿健康、福祉医療、文化芸術などの分野に、IT技術や学術研究などを組み合わせることにより、様々な高次都市機能を備えた魅力的な生活文化環境を創造する。